

『学びの山を登ろう』（学びのプラン）の実践
 ～子どもの言葉で授業を創る～
 湧別町立湧別小学校 研修部

- 1 取組の重点：『**学びの山を登ろう**』（学びのプラン）を活用した授業と評価
- 2 根 拠：資質・能力を育成する授業づくりと学習評価がこの実践に凝縮されているため。
- 3 キーワード：「子どもが主語」「『～たい』が生まれる授業」「意味ある問い」「見通し」「ゴール」「プロセス」「自分の考え」「理由や根拠」「聞く・聴く・訊く」「授業の山場」「学び合い」「読解を経由する記述力」「粘り強さ」「自己調整力」



【どの教室でも広がりを見せている『**学びの山を登ろう**』の実践】

- 4 取組のゴール
 主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり＝**子どもの言葉で授業を創る**

- 5 取組のポイント
 「授業改善の視点」と「育成する資質・能力」とのを連動

授業改善の視点	子どもの学びの姿	連動する資質・能力
「主体的」	<ul style="list-style-type: none"> ・（子どもが）意味ある問いを創り出す ・（子どもが）学習全体を見通しゴールまでの方略をデザインする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題発見・解決能力」と連動
「対話的」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを形成する ・聞く、聴く、訊く 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人と関わる力」と連動（コミュニケーション力）
「深い学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の山場で互いの考えを温かくぶつけ合う ・理由や根拠を明らかにして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語能力」と連動

※「学びの姿」の主語は、すべて子ども。学びの山を登るのは子ども。
 ※そのために授業者は、その時々学びの姿を評価し、自らの授業をふり返るとともに、子どもたちにフィードバックしていく。
 ※研修部は、日々の授業改善によって子どもの学びが変容したことをミニ研修等の時間に各教員に伝え、価値付け、取組の浸透を促す。

◎今後も、**授業を核とした校内研修のマネジメント**で、よい循環を創り出したい。